巻頭エッセイ

# はこだて旅便り

## 「今日もぷらぷら」⑭⑦

# 『函館七月盆と蓮の花』

文月　斉（ふみつき　さい）
埼玉県出身。
人と街、自然と文化を題材に、
みちくさばかりの旅を続ける
エッセイスト。
函館、埼玉、大阪を拠点に
旅を満喫中。

前略、変わりはないか？

夏越の祓も過ぎて今年も残り半年、後半戦に入ったね。こちら函館では、子どもたちが短冊の歌を唄いながらお菓子をもらい歩く七夕や、お盆、花火大会とイベントが続く月が始まって、いい歳をした大人の僕でもワクワクしているよ。

え、お盆は来月じゃないのかって。そうか、君の暮らす町では、お盆といえば旧盆の8月だもんね。北海道でも多くの地域でお盆といえば8月だけど、函館や根室など、ごく一部の地域では新盆の7月に行うんだよ。僕が幼少期を過ごした東京でも、お盆といえば7月だった。入谷の朝顔市があって、続いて浅草寺のほおずき市が始まり、その流れでお盆、更に夏休みに突入していたので、子どもの頃はカレンダーが7月になるだけでウキウキしていたなぁ。その経験がベースになっているので、函館のお盆のタイミングに違和感を覚えたことはなかったよ。

ただ、この「新盆・旧盆」という呼び名もややこしいよね。都内近郊の7月盆を新盆と呼ぶかと思えば、四十九日の忌明け後初めて迎えるお盆のことも新盆と呼ぶし、旧盆は明治時代の改暦で新暦になり、それまでの太陰暦の7月15日が8月15日になったので「月遅れの盆」なんて呼ぶこともある。新しい暦に変わったのだから新盆と呼べばいいものを、「旧暦の7月15日」ということで旧盆と呼ばれるようになった…なんだか自分で言ってても頭がこんがらがってくるよ。

現在では、全国の企業の多くがお盆休みといえば8月15日を中心に設定していることからも分かるように、津々浦々大多数の地域が8月盆を採用していて、7月盆は他に金沢と静岡の一部で行われているくらいなんだって。金沢と函館が同じ新盆派だと聞くと、つい北前船との関係を想像しちゃうけど、能登や加賀では8月の旧盆派だってところが興味深いね。

こんな話を先日、石材店の社長さんと話していたんだ。墓石を製作する仕事柄、お寺さんとの関係も深いそうで、当然のことながらお寺の年中行事や由来などにも詳しいんだ。そこで函館の7月盆の由来を聞いてみたところ、函館でも当初は8月盆だったけど、函館八幡宮の例祭と重なってしまうので大正6年から7月に行うようになったとのこと。なるほどね、現代でも町を挙げて取り組む祭りが全国各地に残るけど、北の大地の玄関口として栄えた当時の函館の祭りともなれば、地元住民の熱の入れようも相当なものだったはず。心静かにご先祖様を供養する盆との両立が難しかったことは想像に難くない。

ユニークなことに、函館市内でも地域によって7月盆と8月盆の地域に分かれるというんだ。平成の大合併で函館市に編入された函館市の東部エリアでは8月盆が基本。昭和46年に函館市に編入された亀田エリアもお盆といえば8月盆なんだそうだよ。ほら、あそこには君も何度か訪れたことのある亀田八幡宮があるでしょ。地域の住人は9月15日の例祭に参加するので、お盆が旧盆でも問題なし。隣り合う地域でお盆の時期が異なる理由に、地域の祭りが関わっているというのは、それなりに説得力がある。東京の7月盆文化とはまた少し由来が違うのだろうけど、地域差というのは面白いね。

地域差といえば社長さんが教えてくれたけど、墓石のデザインにも地域的な差があるんだって。もちろん最近は洋型墓石や故人の趣味を反映させたオーダーメイド墓石も珍しくないけど、昔ながらの和型の墓石があるでしょ。○○家と彫られた縦長の石を棹石と言って、そのすぐ下に蓮華の花を模した台座があるんだけど、この花の開き方が関東エリアでは八分咲きで、道南エリアでは満開なんだって。最近は簡略されて蓮華のない和型も多いみたいだけど、君の暮らす町では何分咲きなのか、今年のお盆に確認してみるといいよ。それじゃあまた。

法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。
さらに詳しくはWEBへ
イータックス　検索